

平成 28 年 5 月 20 日

「JR九州グループ中期経営計画 2016－2018」について

JR九州グループでは、2016 年度（平成 28 年度）から 2018 年度（平成 30 年度）までの 3 カ年の新たな中期経営計画を策定しました。

JR九州グループは、平成 24 年 4 月に策定した「つくる 2016」のもと、日々の“おこない”を通して「誠実」「成長と進化」「地域を元気に」という“いきざま”をつくり、「安全とサービスを基盤として九州、日本、そしてアジアの元気をつくる企業グループ」という“あるべき姿”を目指し、計画期間内の「株式上場の実現」に向けて、グループ総力をあげてさまざまな取り組みを着実に実行してきました。

平成 28 年度は「つくる 2016」の最終年度として位置づけていましたが、平成 28 年 4 月 1 日の「旅客鉄道株式会社及び日本貨物鉄道株式会社に関する法律の一部を改正する法律」の施行に伴い、損益の状況に大幅な変更が生じることになったことなどを踏まえ、この度、平成 28 年度よりスタートする新たな中期経営計画を策定するものです。

JR九州グループの“あるべき姿”や日々の“おこない”は変わることはありません。その上で、今回の計画では「やさしくて力持ちの“総合的なまちづくり企業グループ”」を目指す期間と位置づけ、すべての事業を支える「4つの柱」をより強固なものとし、「3つの重点戦略」を積極的に推進していきます。

新たな中期経営計画の目標達成に向け、そして“あるべき姿”の実現に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいります。

「JR九州グループ中期経営計画 2016-2018」の概要

JR九州グループのあるべき姿

安全とサービスを基盤として
九州、日本、そしてアジアの
元気をつくる企業グループ

JR九州グループのおこない

誠実

成長と進化

地域を元気に

■中期経営計画 2016-2018 の位置づけ

やさしくて力持ちの“総合的なまちづくり企業グループ”を目指す

地域の発展に貢献する長期持続的な事業活動を可能とする強固な経営基盤づくりをさらに加速させる。

- ・ 強靱な鉄道づくりやささまざまな事業によるまちづくりを積極的に推進し、九州における事業基盤をより強固なものとする。
- ・ 今後の九州の元気づくりの核となる熊本駅や長崎駅の周辺開発に向けた準備を着実に進める。
- ・ 日本、アジアの元気づくりに本格的に挑戦することを検討する。

将来（今後10年間におけるプロジェクトや目指すもの）

- ・ 九州新幹線西九州ルート開業
- ・ 熊本駅や長崎駅の周辺開発
- ・ マチナカや都市部以外のまちづくりへのさらなる参画
- ・ 九州外エリアでの事業確立

■中期経営計画 2016-2018 の基本方針

経営環境を踏まえ、

4つの柱をより強固なものとし、3つの重点戦略を推進する

⇒JR九州グループに関わるすべての人たちにやさしくて力持ちであり続ける

○4つの柱

安全

“安全はあるものではなく、つくりあげていくもの”との考えのもと、最大の使命であり企業価値でもある「安全」をすべての事業で追求し、お客さまに「安心」を提供する。

サービス

“サービスを社風へ”と高めるべく、お客さまの声や社員の声を商品や施策に反映し、サービス改善へのあくなき挑戦を続け、お客さま満足を追求する。

人材

人と人とのつながりを大切にし、日々誠実に業務に取り組み、自らの知識・技能を磨くことで成長するとともに、新たなことに果敢に挑戦する人材を育てる。

デザインと物語(ストーリー)

お客さまや地域社会に選ばれ続けるために、デザインと物語(ストーリー)にこだわり抜いた“JR九州グループらしい”商品やサービスの提供、まちづくりの取り組みを推進する。

○3つの重点戦略

すべての事業の根幹である強靱な鉄道づくり

- ・安全・安心・快適な鉄道基盤の強化
- ・ブランドや連携の強化による収益力の増進
- ・技術革新と効率的な事業運営の追求

九州における積極的なまちづくり

- ・福岡都市圏におけるまちづくりの推進
- ・九州の拠点都市におけるまちづくりの推進
- ・さまざまな事業による九州のにぎわいづくり

新たな事業や九州外エリアへの挑戦

- ・さらなる事業領域の拡大を目指し、新規事業に積極的に挑戦
- ・日本全国、そしてアジアのマーケットを目指した事業の拡大を推進

■経営数値目標

○連結営業収益（2018年度） 4,000億円
営業収益に占める鉄道運輸収入以外のシェア 62%超

○連結EBITDA[※]（2018年度） 780億円

※EBITDA：営業利益と減価償却費の和で算出

- 設備投資の多寡による影響（償却費の増減）を除いた収益力を示すもので、
企業の成長性を経年評価する際に用いられる指標

- ・ JR九州グループのあるべき姿、本中期経営計画の目標達成に向け、
得られるキャッシュフローを「鉄道事業における安全投資」、「成長投資」を
中心に充当する
- ・ 安定的に配当を実施することを目指す

[参考] 連結設備投資額（2016～2018年度総額） 1,900億円
（主な内訳）鉄道事業における安全投資 650億円
成長投資 800億円